

2014.03.09

今回はひとつのテーマでまとめることが出来ません。お雑煮のような話ですが、御容赦下さい。

■うわさは本当だった

何か、安いバラエティー番組のテロップですが、御容赦。

今回、国際コミッセルは4名。チーフコミッセルにレディース・ツアー・オブ・カタールはオランダからフレデリックさん、ツアー・オブ・カタールとツアー・オブ・オマーンにはUCIコミッセルコースの教官をなさるヤンさん、チーフ以外のメンバーは3試合固定で、マックスさんとジュエルさんがフランスから、そして藤森でした。国内の試合ではステージレース期間中審判員とポジション（COM2~4）が固定される例が多いです。今回は、日替わりでポジションチェンジ。

レディース・ツアーの前の審判打ち合わせで、ジュエルさんがごそごとと割付表を作ってコピーしてくれました。レディース・ツアー4日間で藤森は2回もCOM2に割り付けられた表を見て、びっくり。実績の無い東洋人にCOM2（競走の先端部分の審判）を任せても大丈夫なのでしょうか。とても、とても不安。

緊張の監督会議。ジャパンカップと違うのは、審判団が後で睨み付けていないことかしら。今回、なんと、モトコミッセルは投入しないとのこと。黒板娘も投入しないとのこと。どうやって、集団ごとのタイム差を測るのでしょうか。どうやって、選手にタイム差を知らせるのでしょうか。

14日間宿泊するリッツカールトン・ドーハ(宿泊料金を調べてみてください。) その駐車場で、指定時刻に皆さん集合。それぞれ既に顔馴染みのメンバーに初めて混じる日本人。一生懸命自己紹介して、握手して、ニコニコ笑って。とっても不安。御一行様集団で駐車場を出発。交差点ごとにエスコートポリスが車を止めてしまい、ノンストップでスタート地点まで。いいのかな。戸惑っているのは日本人だけ？

ドーハの海岸沿いのイスラム美術館が選手紹介と第1ステージのスタート地点。きよろきよろと藤森が乗るべきCOM2車を探すと、あった。三菱パジェロ。屋根も開く。

ドライバーはアルフォンス・ド・ヴォルフさん（60歳になってもかっこよいです）。後部座席左側にピショーさん。右側にエディ・メルクスさま。藤森が助手席に座っていいのかしら。

公式スタートから、実際の競技開始、タイム差計測ほか、全部全部ピショーさんが裁きます。無線機は2系統。競技無線とラジオツール。ステージ1の競技時間、2時間9分56秒の間藤森は一切触ることが出来ませんでした。触る必要が無く、完璧な運営です。ツールのレースディレクターと自転車競走の神様の前で、藤森は無線機に触る勇氣もありません。タイム差はレギュレーターか タンデムモト後部座席のフィニッシュジャッジが集団の構成とともに競技無線で入れてくれます。そして、COM2車内にあった黒板をモトに手渡して、タイム差を教えていました。チームカーの裁きも完璧。ピショーさん自身がUCI国際コミッセル資格をお持ちの現役審判員だそうです。藤森は、やれることが全く無く、無事第1ステージ終了。

役員打ち合わせで、「何もやれなかった。何もしなくていいのか。」と先輩方にこっそり聞いてしまいました。ツールの審判を10回も経験している、ASOのクラシックを散々裁いている二人がにっこり笑って教えてくれました。

「それで正解」

「えー」

「ASOは自転車競走を運営して、テレビやメディアに露出させて、テレビやスポンサーからお金を集めて

いる会社だ。1年のうちほとんど全ての期間、パリニースやツール・ド・フランスを含めて自転車競走を運営している。自転車競走運営のプロフェッショナルだ。彼らから見ると、国際コミッセルといっても、週末だけのアマチュアである。試合の品質、すなわち、商品の値段に直結する部分を、「アマチュア」に委ねることは出来ない」とASOは考えている。」

藤森深く納得。遙か以前、国際コミッセルコースで聞きかじった話の通りでした。

■ピシヨーさん指摘する

2013までのツール・ド・フランスのレースディレクター、ジャン・フランソワ・ピシヨーさんが第1ステージ後のホテルで審判団を捕まえて。

P：今日ステージ優勝したオランダ人（TEAM,GIANT.SHIMANO）のジャージの広告物はいいのか？

審判団：??

P：競技規則では、スポンサーの名称、その社のロゴまたはトレード・マークを入れることになっている。

彼女のジャージにはLIVの文字しか入っていない。

いいのか。

審判団：（慌てて競技規則書をiPadから取り出す。重いのを我慢して印刷していった藤森も慌てて、競技規則書を開きました。）

競技規則 1. 3. 038 広告物

主要パートナーの名称、その社のロゴ又はトレード・マークは、ジャージの胸と背中、両方の上部においてももっとも強調して(太い書体)表示するものとする。

UCIに二つの主要パートナーを登録している場合、少なくともそのひとつを上記の通り表示するものとする。

審判団：LIVというのはGIANT社の女性用自転車のブランド名で・・・

P：でも、ロゴでもトレード・マークでもないだろう。

審判団：・・・・・・沈黙

結局、最終日までリーダージャージに表示される「LIV」の名称は代らないまま、GIANT/SHIMANOチームが4日間砂漠を支配していました。でも、競技規則のほうを変えるのかしら。

■内側を見せていただきました

どうしてツールではゴール5分で表彰式を始めることが出来るのでしょうか。表彰式にスポンサー名が入ったリーダージャージを用意できるのでしょうか。日本の試合でどちらもが出来ている国際レースはありません。最終選手がゴールして漸く表彰式が始められる水準です。遙か以前の大会ではゴール後1時間経たないと表彰式が始められなかった大会もあったと記憶しております。

別紙をご覧ください。フランス人タイムキーパーが実際にツアー・オブ・オマーン第2ステージで表彰対象者を手計算で算出していた表です。電子計測を請け負っているマツスポーツがトランスポンダーデータから自動計算する区間成績、個人総合成績とは別に、タイムキーパーが手動計算していた表です。一致して初めて表彰に動きます。項目ごとに説明します。

Dos : ゼッケン番号です

Classemnt Actuel : 当日朝の成績を記入する欄です。

Total Place : 前日までの着順合計です。

個人 TT が実施されていない場合、個人総合で同タイムの場合、着順合計の少ない選手を優位とします。

1/100 : 個人 TT で切り捨てた 1/100 秒です。

個人 TT が実施された場合、個人総合で同タイムの場合、1/100 秒のより少ない選手を優位とします。

Ecart : 当日朝の個人総合成績でのタイム差を記入します。

Intermediate : 中間スプリントでのボーナスタイム合計を記入する欄です。

藤森は中間スプリントごとに計算するといったら、それも流儀だと笑ってくれました。

Bonif : 中間スプリントで獲得したボーナスタイムの秒を記入

Ecart Fictif : ボーナスタイムを算入した、仮のタイム差を記入します。

ここまでは、ゴール手前で作業が完了します。

Arrivee : ゴールのデータを記入する欄です。

Place : ゴール着順

Bonif : ゴールでのボーナスタイム

Ecart : ゴールでの先頭選手からのタイム差を記入します。

決して、実時間 (○時間○分○秒) ではありません。タイム差です。

1 3 4 番のための -2 秒は多少慌てていた証拠でしょうか。

一着の 1 3 番のための 0 秒が正解

1 7 5 番が 2 分 0 5 秒遅れでゴールしたことを意味します。

Nouveau Classement : 新しい総合順位を計算記入する欄です。

Somme : 当日朝のタイム差 + ボーナスタイム + ゴールのタイム差の合計を計算します。

当日朝上位 1 0 名、中間とゴールのボーナスタイム獲得選手、区間成績上位選手が対象です
1 3 4 番の -2 秒がもっとも小さい数字になりました。

藤森はここで作業を中止して、個人総合成績を発表しておりました。

フランス人は少し手が込んでいます。

Nouvel Ecart : 新しいタイム差です。 -2 秒を 0 秒に戻して、2 位以下のタイム差を表示しています。

Total Place : 新しい着順合計です。前日までの着順合計に当日の着順を加えて作ります。

個人総合で同タイムの時、必要になります。

上記の 1/100 秒欄とあわせて、個人総合成績で同タイムに対応した表です。

この手動計算をやって、電子計測結果と突き合わせている間に、リーダージャージのスポンサー枠内にチームスポンサーのロゴを移動式のプリントマシンで印刷しておりました。

ゴールと同時に、COM2 車両に乗っていらっしやったピショーさんが本部に駆け寄ったわけがこれです。
全部の仕事をチェックして、表彰対象選手、表彰要員を手配していました。

極東で、一人で考えてたどり着いた方法が、ツール・ド・フランスのやり方とそれ程違っていなかった。とても、とても幸せを感じた瞬間でした。と同時に、同タイムの場合に対応した計算方法を導入しているフランス人に、やはりかなわないとも思いました。職場を抜け出した甲斐がありました。

■ポポヴィッチさん、有り難う

ツアー・オブ・オマーン、COM2車にはクリスチアン・プリュドムさん（2014からのツール・ド・フランスのレースディレクター）が乗車。ピシヨーさんはCOM1車に乗車。第4ステージ、藤森もCOM2として乗車。

早々と4名の逃げが決まって、敢闘賞狙いのベルギー人とポポヴィッチ選手が、合計4名の逃げをリードしました。ポポヴィッチ選手は総合で20秒遅れですが、100km過ぎの4回の丘までは全くの平坦です。逃げ切れる可能性はひどく少ないでしょうが、一発狙ったのかしら。

タイム差が7分を越えたあたりから、モトによるタイム差計測がしんどくなってきたようで、固定物を使ってタイム差計測をしていました。タイム差計測で、日本の流儀と少し違う点を列挙します。

*モトがタイム差計測に入る場合、指をあげて、ここで計測する旨Com2に知らせていました。

*何も無い平坦な砂漠ですので、道路看板くらいしか目標がありません。かなりの部分がアラビア語。COM2とCOM1（正確にはプリュドムさんとピシヨーさん）で混乱を起こさないために、以下の工夫がありました。

○COM1は必ずCOM2の発信した内容を復唱していました。測定場所を間違わないためでしょう。

「右側、水色の看板、マスカットまで50km」といった具合です。

レースの残り距離看板や補給区間終了の看板は分かりやすいので、たくさん使っていました。

遠くから目立つ色の看板にしているので、わかりやすかったです。この程度でもノウハウの差です。

○いろいろな種類の固定物を目標にしていませんでした。

ほとんどが看板でした。大きなモスクとか、立体交差とか目標になると思ったのですが、看板に絞って測定固定物にしていました。理由はいつか聞いてみたいです。

逃げが落ち着いている間は、ソーシャルメディアタイム、または、世間話タイム。プリュドムさんは、日本に来たことがあるとか、90年の世界選手権では駆け出しのジャーナリストだったとかおっしゃっていました。藤森もうっかり、90年宇都宮と前橋ではシャペロン（アンチドーピングコントロールの助手）だったという話になりました。そして、現在、小さな小さなステージレースのオルガナイザーをやっているといったら笑ってくれました。

笑い話の中で、ツールが放送されて以来、日本でも自転車盛んになった。若い連中がツールの選手の真似をして、ロードレーサーを買ったりしている。けれども、若い選手が、ツールの真似をして、ボトルやゴミを投げ捨てるようになって困っている。今のところ、一発で3000円の罰金を掛けている。と聞いたら、「それは日本全国か」と興味深そうに聞いてきました。「学生さんの大会と私達の大会だ」と答えました。

そういえば、監督会議とかラジオツールで、不用意にボトルやゴミを投げ捨てないようにと放送していました。そんな時、ポポヴィッチ選手が片手を再度上げてチームカーを要求。先程補給を受け取ったはずなのにと思いながら見ていると、チームカーに食料のゴミと空になったボトルを返していました。早速プリュドムさんが「ありがとう、ポポヴィッチさん」と日本語で。車内大爆笑。何年か先に、ツールでもゴミの投げ捨てに罰金がかかる時代が来るかもしれませんね。